

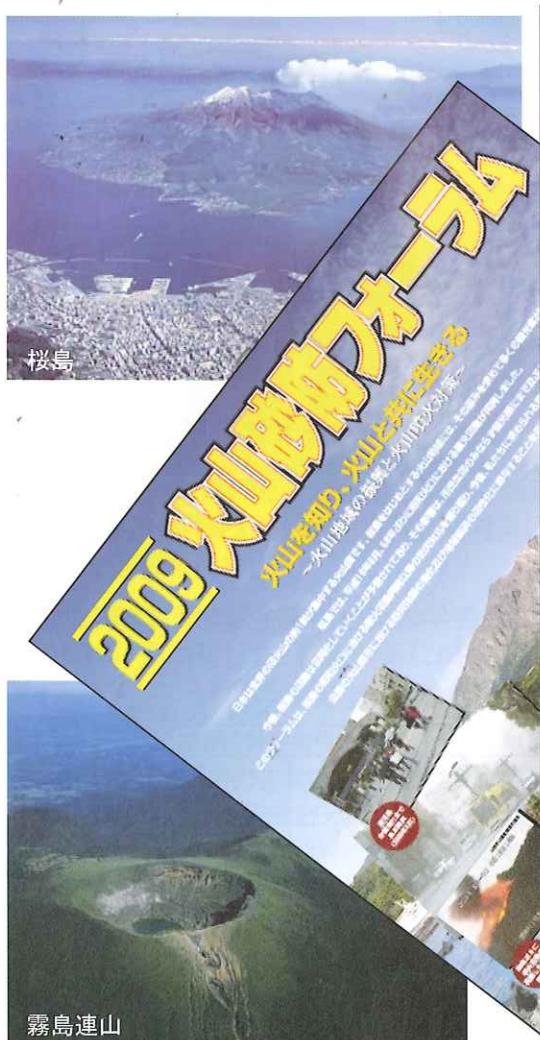


発行：鹿児島県土木部砂防課・(財)鹿児島県建設技術センター

## 2009 火山砂防フォーラムの開催

平成21年10月29日に鹿児島市民文化ホールで「2009火山砂防フォーラム」が開催されます。 「2009火山砂防フォーラム」では、近年噴火活動が再開している桜島火山における噴火対策についての研究発表やパネルディスカッションが行われます。また現地研修会として、桜島島内における火山砂防施設等を視察します。

火山防災への理解を深める貴重な機会ですので、奮ってご参加ください。



## ○火山砂防フォーラムについて

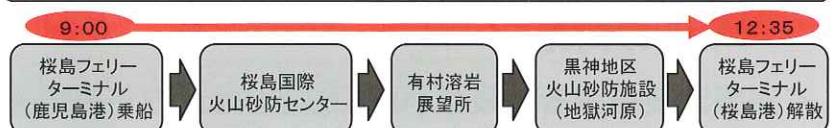
平成3年の長崎県雲仙・普賢岳噴火災害を契機として、噴火対策や防災体制の確立、防災意識の高揚を図るために、全国の活火山周辺の31自治体が「火山砂防フォーラム実行委員会」(149市町村加盟:平成21年4月時点)を組織しました。火山砂防フォーラムは平成3年から毎年全国の活火山周辺で、「火山を知り、火山とともに生きる」をテーマとし、パネルディスカッションや研究発表、情報交換会、現地研修会などを通じて、火山活動に伴う警戒避難体制や防災体制の強化など開催地域周辺における防災意識の変革などに寄与していると学識界等からも高く評価されています。

## プログラム

## 第1日目 フォーラム(鹿児島市民文化ホール 第2ホール)

時間	内容・出演者等		
13:00	開会式典		
	主催者挨拶 火山砂防フォーラム委員会委員長 鹿児島市長 森 博幸		
	来賓挨拶 鹿児島県知事 伊藤 祐一郎		
	国土交通省砂防部長 牧野 裕至		
13:20	研究発表:「活火山・桜島とわたしたちが支える火山防災」		
	桜島火山と噴火対策について、桜島島内の中学生が学習した成果を発表します。 出 演) 鹿児島市立東桜島中学校1~3年生 コメントーター) NPO法人桜島ミュージアム理事長 福島 大輔 京都大学防災研究所 火山活動研究センター准教授 井口 正人 進 行) KTS鹿児島テレビアナウンサー 中西 真貴		
14:30	休憩		
14:45	パネルディスカッション:「火山地域の振興と火山噴火対策」		
	近年、噴火活動を再開した桜島における防災関係機関の対応を振り返り、評価と課題その解決に向けた意見交換を行うとともに、大正規模の噴火への備えまでを視野に入れて防災関係機関としてのあり方や課題にも言及していきます。また火山防災を地域の振興に活かしてゆくための様々な方策についても意見交換を行います。 出 演) 鹿児島市長 森 博幸 垂水市長 水迫 順一 京都大学防災研究所 火山活動研究センター教授 石原 和弘 鹿児島県観光プロデューサー 奈良迫 英光 南日本新聞社論説委員 日高 和広 コメンテーター) 國土交通省砂防部長 牧野 裕至 コーディネーター) NHK解説副委員長 山崎 登		
16:45	火山砂防フォーラム鹿児島大会宣言		
17:00	~第1日目フォーラム終了		
17:30	情報交換会 開会(19:30閉会予定／会場:鹿児島サンロイヤルホテル)		

## 第2日目 現地研修会(桜島島内の火山砂防施設等)



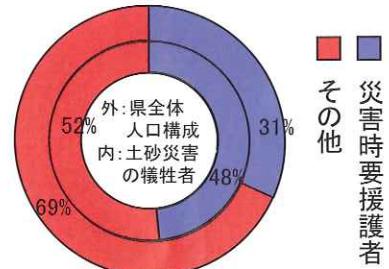
2009火山砂防フォーラム  
へ奮ってご参加ください

『まもつど』くん

# 災害時要援護者関連施設を保全する土砂災害対策について

## 災害時要援護者に係わる土砂災害の現状

平成5年～18年に発生した土砂災害の人的被害に占める災害時要援護者<sup>※1</sup>は約5割であり、県の人口に占める災害時要援護者の約3割(H20.10.1)に対して高い割合となっています。また、先日、山口県防府市で発生した土石流災害では災害時要援護者関連施設<sup>※2</sup>である特別養護老人ホームが被災し、死者・行方不明者が14名に上りましたが、そのうち13名が65才以上の災害時要援護者でした。  
※1:年齢が5才以下、65才以上の者のみを考慮  
※2:児童福祉施設、老人福祉施設、身体障害者更生援護施設、知的障害者援護施設、精神障害者社会復帰施設、医療提供施設、幼稚園など



土砂災害の人的被害に占める  
災害時要援護者の割合 (H5～H18)

## 対策の取組状況

### ＜ハード対策＞

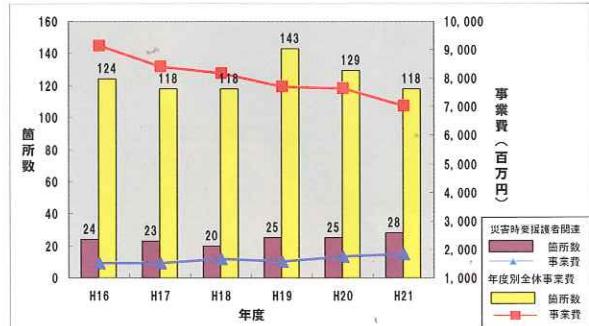
鹿児島県においては、災害時要援護者関連施設に被害を及ぼす恐れのある土砂災害危険箇所のうち、土砂災害防止施設の整備率は約4割となっており、全国平均よりも約1割高くなっています。事業費に関しては、砂防事業費全体が年々減少する中で、災害時要援護者関連施設を保全するハード対策を重点事業に位置付け、積極的な整備を行っていることから、全体事業費における災害時要援護者対策に係わる事業費の比重が大きくなっています。

#### 災害時要援護者関連施設に関する危険箇所整備状況

土砂災害危険箇所 (H12年度調査)	要施工箇所数 ※1	H20年度末	
		施設設置箇所数	整備率(全国) ※2
土石流	2,160	652	30% (21%)
急傾斜	2,707	954	35% (25%)
地すべり	85	21	25% (22%)
合計	4,952	1,627	33% —
うち災害時要援護者関連施設	270	112	41% (31%)

※1:土砂災害危険箇所のうち、他事業対応箇所等を除く、砂防課補助事業等での対応予定箇所

※2:()はH18年度末現在における全国平均の整備率



災害時要援護者対策における事業費等の推移

### ＜ソフト対策＞

平成13年度に施行された土砂災害防止法に基づき、平成16年度から近年の災害実態を踏まえ、市町村と連携し土砂災害警戒区域等の指定に努めています。

#### 災害時要援護者関連施設に関する土砂災害警戒区域等の指定状況 H21.9.30現在

	土砂災害危険箇所		土砂災害警戒区域		うち土砂災害特別警戒区域	
	箇所数	うち施設を保全対象に含む箇所数	区域数	うち施設を含む区域数	区域数	うち施設を含む区域数
鹿児島県	16,204 (45市町村)	354	8,707 (17市町村)	148 (14市町村)	1,021 (3市町村)	9 (3市町村)

※参考 地域防災計画書への記載市町村数 14市町村 ハザードマップ作成済みの市町村数 10箇所  
(H21年4月1日現在)

## 今後の対応

### ＜災害時要援護者対策のハード・ソフト対策の一層の推進＞

ハード対策: 災害時要援護者対策着手率(平成22年度末)の中期目標である56%を達成

ソフト対策: 災害時要援護者関連施設を含む土砂災害警戒区域等の指定の調査を平成23年度末までに完了

### ＜その他の取り組み＞

- 平成21年7月28日に、市町村に対して危機管理部門と連名で、土砂災害防止法に基づく警戒避難体制の整備について、再度通知(実施済)
- 台風期前までに、災害時要援護者関連施設を保全する砂防施設等の再点検を実施(実施済)
- 土砂災害危険箇所内等にある災害時要援護者関連施設の再調査を実施し、年内に公表予定

# 県・市町村などが取り組んでいる防災体制づくりの紹介

## 土砂災害ハザードマップの作成について～鹿児島県さつま町の事例～

- ハザードマップはそれぞれの市町村の特性、事情に応じたやり方で作成されていることと思います。比較的簡単なハザードマップ作成の方法として、鹿児島県さつま町におけるハザードマップ作成事例を紹介します。また、国土交通省が作成しました「土砂災害ハザードマップ作成のための指針と解説(案)」もハザードマップを作成する上で参考になりますので、土砂災害警戒区域の指定がなされている市町村におかれましては、是非御一読ください。(URL:[http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/05/050729\\_.html](http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/05/050729_.html))

① 鹿児島県砂防課に「土砂災害警戒区域入りの航空写真のデータ」を求める。

② エクセルやパワーポイントの「オートシェイプ機能」、「テキストボックス機能」を使って、ハザードマップに必要な表題や凡例などのパートを貼り付ける



### ③ ハザードマップの完成



## 鹿児島県市町村長防災研修会が開催される

8月6日、平成21年度鹿児島県市町村長防災研修会が鹿児島市内で開催されました。

この会は、災害発生時にリーダーとして適切な対応が求められる市町村長に対して、災害対応に関する実践的な知識、ノウハウ等を修得してもらうために、鹿児島県などが平成18年度から開催しているものです。

当日は、29人の市町村長の出席(他は代理出席)のもと、佐藤栗原市長による「平成20年度岩手・宮城内陸地震への対応と復興に向けて」と林前岡谷市長による「忘れまい豪雨災害」の講演があり、当課の伊藤課長においても「山口県内で発生した土砂災害について」の報告を行いました。



市町村長防災研修会の様子

## 地域防災リーダー養成講座が開催される～薩摩川内市～

9月5日～6日、薩摩川内市が主催する平成21年度地域防災リーダー養成講座が開催されました。

本講座は、地域における自主防災組織の結成と活動を促進するため、防災に関する実践的知識と技術を習得し、自助・共助による地域防災力の向上と防災意識の高揚を図る人材を養成することを目的に今年度初めて開設されたもので、参加者は28名に上りました。

講座には、「地域防災リーダーの役割と活動」「防災訓練」「気象の基礎知識」などのカリキュラムがあり、当課の伊藤課長は「土砂災害対策」についての講義を行いました。

## 垂水市長と治水砂防協会静岡県支部との意見交換会

8月20日に全国治水砂防協会静岡県支部の20名が鹿児島県の砂防事業の視察に訪れました。

一行は、垂水市の二川地区の被災現場を視察した後、垂水市長との意見交換会に臨みました。

意見交換会では、冒頭垂水市における危機管理の取組状況の説明があった後、住民の警戒避難のあり方について、避難勧告と土石流発生とにタイムラグがあることや避難場所がバリアフリーでないことなど、日頃各首長が苦慮されている事項について活発な意見交換がされました。



意見交換会の様子

## インターンシップ研修生の紹介



鹿児島県立短期大学  
商経学科経済専攻1年  
川畑 英里 さん

8月17日～21日の1週間  
インターンシップ研修生として  
砂防課にて研修

先日は大変お世話になりました。夢にまで見ていた県庁に行くことができて本当にうれしかったです。私が県庁に将来勤めたいと思ったキッカケは、大学で知り合った友人でした。その友人の父が県庁にお勤めしていて、友人は何回も転校を経験していました。そして、知識が豊富にあり、笑顔が絶えない子です。その友人は、大学でも自らボランティアサークルを立ち上げ、大学生ながらも積極的に社会活動に取り組んでいます。そんな友人を見て、自分も何か社会のためになる仕事がしたいと思うようになりました。そして次第に、鹿児島県の各地方をめぐり、新たな仕事や人と出会える県庁に勤めてみたいと思うようになりました。そして、今回は企業研修という機会を利用して県庁に実際に身をもって体験をしにいくことができました。体験に行くまでは砂防という言葉を知らず、全くどんなお仕事をしているのかわかりませんでした。しかし職員の方々がわかりやすく丁寧に教えて下さったおかげで、砂防課のお仕事がだいたいどういうもののかわかるようになりました。また、4日目は実際の現場や市長さんの意見交換会にも立ち会わせていただくこともできました。市長さんの意見交換会では自分の災害に対する考え方の甘さを改めて実感しました。

今回私は、授業の一環として行かせていただいたのですが、楽しみながら学ぶことができました。私がこのように楽しく学べたのは、皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

### 〔県議会だより(平成21年第3回定例会、砂防課関係)〕

- ・補正予算が採択されました。(砂防施設等管理事業 5,800千円 砂防台帳整備費 5,500千円)
- ・平成21年9月4日に、大島郡町村議会議長会会长 町田末吉氏より陳情のあつた「急傾斜地崩壊対策事業の整備促進について」は、平成21年第3回県議会定例会において採択となりました。

### 編集後記

今年は梅雨も少雨だったし、この秋も台風が来ることなく終わってしまいそうな雰囲気です。8月末の日曜日、久しぶりに我が家の中庭の剪定をしていた時のこと。あと少しで作業も終わりかけた矢先にスズメバチの小群に襲われてしまいました。ほとばりが冷めた頃、そっと覗いてみると、結構大きくなつたスズメバチの巣がそこにあるではありませんか。昔から「スズメバチが高いところに巣を作る年は台風が来ない」という話もうなづけるというものです。

とは言っても、山口県防府市などの土砂災害の例に見るよう、「天災は忘れずにやってくる！」ものです。今回は土砂災害警戒区域指定後の災害時要援護者関連施設への情報伝達の取組状況が課題となりましたが、日頃からの防災への備えはどんな時も欠かすことなく頑張りましょう。

(編集長 技術補佐 U・K )

ご意見・ご感想お寄せ下さい

TEL:099-286-3616 FAX:099-286-5627

E-MAIL:[sabou@pref.kagoshima.lg.jp](mailto:sabou@pref.kagoshima.lg.jp)

鹿児島県ホームページ:<http://www.pref.kagoshima.jp/>

土砂災害警報システムホームページ:<http://www.doboku-bousai.pref.kagoshima.jp/>

“みんなで防ごう土砂災害”